



Interview 滝山を子どもたちのふるさとに 38年続く手づくり盆踊り

8月24・25日開催 あじさい公園手づくり盆踊りの会

東久留米市滝山地区のあじさい公園で毎年8月に開かれる、住民手づくりによる盆踊りがある。1975年に始まった「あじさい公園手づくり盆踊り」は今年で38回目。レコードを一切使わず、会員自らの唄、太鼓、鉦、笛などのお囃子に合わせて踊る、イマドキめつたに見られない貴重な盆踊りだ。

1968年から入居が始まった滝山団地。同時に周辺に住宅街ができ、滝山地域は新住民の町だった。東久留米第九小学校近く、遊歩道に沿ったあじさい公園のすぐ前に移り住んだ、人見勇三さん(68)、広木房枝さん(70)夫妻はともに邦楽の演奏家であり指導者。38年前、和楽器の教え子たちとあじさい公園で野外練習をしていたら、それを見にたくさんの人たちが集まってきた。一緒に踊ってくれた近所のおばあちゃんもいた。引越してきて間もなく、近所づきあいもなかった広木さん。その楽しいひとときがきっかけで、周りの人々と、手作りの音楽で「夏休み、さよなら盆踊り」

り」をやろうと盛り上がった。当日はハンドマイク1つに秋葉原のお稲荷さんから借用した太鼓。自前の筆、三味線で唄って踊る。子どもたちを始め、予想以上の人々が集まったが、灯りは懐中電灯2〜3個だけという暗闇の中の手作り盆踊り。これがすべてのことの始まりだった。この頃は子どもたちの数も多く、新しい土地で育つ子どもたちにとっては、滝山がふるさとになる。しかし土地に根付いた祭りや芸能はなく、手づくり盆踊りをきっかけに「日本の芸能を通して子どもたちにふるさとをつくらう」という思いが子育て中の親たちの根底にあった。そのことはとりもなおさず地域文化の創出と密なコミュニケーションにつながっていったにちがいない。

模範を重ね、ともに育ちあふ

1回目の暗闇の中の盆踊りを見かねた、近所で建設会社を営む大工さんが2回目から櫓を組んでくれた。近所へ「手づくり盆踊り」会員募集のチラシを配ってくれる人、祝い金を寄付する人、九小PTA役員も巻き込み、協力者も段々増えてきた。

子どもたちがおやつ代50円を持参しての「太鼓の会」定期練習も始まった。太鼓が足りないのので、人見さんがバチだけは揃え、棚板にぞうきんを載せて叩くという練習もしていた。太鼓



左から室井代表、人見さん、広木さん

の会ができると、会の中に「唄う会」「笛の会」ができ、「踊り研究会」も後にできた。世話人体制が徐々に組織化され、10

回目を過ぎた頃から、借り物に頼っていた櫓や大太鼓を積立金や寄付金で購入。自前のものを持つまでに10年、15年が経過していた。会員は現在50余名、小若(小学生)中若(中学生)、若連(高校生以上)、大若(大人)、幼児たちのミニ小若、幅広い異世代のつながりだ。現在代表を務める室井敏明さん(64)のように、子ども3人を入会させ、親は運営に携わり、一族総出で盆踊りにかかわってきた人々が多い。室井さん自身もそれまで会の事務局として、毎月会員に配るお便りをつくり、踊りの講習に尽力してきた方だ。人見・広木夫妻が自宅で太鼓の練習合宿もしたりした。その熱心な指導で、子どもたちは太鼓や踊りが大好きになり、技能を伸ばしていった。

しかし危機もあった。「12回目を迎えた頃から、急に会員が減りました。

中学に入ると部活や受験のため、やめてしまうのです。会存亡の危機でしたが、広木先生がOBたちに『江戸囃子を練習しよう』と呼びかけたら、退会した子たちが戻ってきて、広木家が彼らの居場所のようになったのです。』と室井さん。これが若連発足のきっかけとなり、会の基盤を確かなものにした。今では若連の太鼓のレベルの高さは相当なものだ。

最初の頃は近所から「唄がへタね」「一つの演目ばかり長々と続いている」など苦情があったものの、そのうち「楽しみにしている」という声に変わっていった。しかし「苦情の声が演

目に工夫し、レベルアップのために努力しようという気持ちを与えてくれました。最初のうちの会員が楽しむ会から、多くの人が集まる恒例行事となり、地域への責任を感じるようになりました」と広木さん。

会員「丸となり見せる芸能」

盆踊りの柱を「相馬盆踊り」と決め、14回から毎年行っているが、20年前から、人見さん、広木さんを中心とした会員が全国各地に取材にでかけ、地元保存会から踊りの現地講習を受けている。学んだことを持ち帰り伝達し、盆踊りに活かすのだ。これぞ、こ

の会の真骨頂。それを実感させられたのは今年の3月11日のこと。

東日本大震災後丁度1年、何度も訪れ交流がある東北の地を支援しようと、東久留米市まろにえホールでチャリティコンサートを開催。会場は立ち見ができるほどの盛況。岩手県の虎舞と七頭舞、石巻のはねこ踊り、会津磐梯山、相馬盆踊り。出演者皆がいきいきと、エネルギーに踊り、お囃子を奏で：圧倒された。その上、「花しょうぶ」としてプロ活動中の広木さんの箏、人見さんの三味線、尺八に酔い、この感動は何なのだろうと思った。子どもから大人までひとつに

なった連帯感が伝わる芸能舞台。ゼロからスタートした、すばらしい地域文化。その裏には人見さん、広木さんはじめ多くの人々の骨身を惜しまぬ働きがあったことだろう。そして滝山をふるさととする次世代もしっかりと育ってきている。今年の盆踊りが待たれる。

● 第38回 盆踊りの夕べ ●

8月24日(金) 宵祭り 8月25日(土) 本祭り 時間はいずれも6時30分～9時30分 滝山あじさい公園で(東久留米第九小西門寄り)
(問) 市外局番042 室井(471) 3726・人見(473) 8484・米持(332) 2553